

令和7年度第2回牛久市健康づくり推進協議会 議事録概要

日 時：令和8年2月5日（木）午後1時30分～午後2時56分

場 所：牛久市保健センター研修室

出席者：委員：21名中17名出席（代理出席1名）

委員名	出欠	委員名	出欠	委員名	出欠
泉 憲治	出	河村 智教	欠	宮本 克樹	出
山崎 陽介	出	谷田部 英樹	出	関島 紀子	出
伊藤 春雄	出	岩崎 恒夫	出	橋本 庄司	出
旭 郁	出	吉田 敏子	出	荒川 隆人	出
永山 静子	出	石田久美子(代理)	欠	川村 始子	出
岩井 浩一	出	山波 真理	出	渡部 功	欠
望月 諭	出	大沢 杏美	欠	木本 雪佳	出

事務局：保健福祉部部長 渡辺恭子 次長 宮本史朗 健康づくり推進課長 飯泉麻由美
健康づくり推進課職員 野口ちひろ・尾澤俊・森まどか・西宮いづみ・高野星奈
株式会社 都市環境計画研究所 庄司・森・色川

協議会内容：

1. 部長あいさつ
2. 議事録署名人の指名（谷田部英樹委員、関島紀子委員）
3. 議事（議長：岩井浩一委員長）
 - (1) 牛久市健康実態調査結果について
 - (2) 牛久市新型インフルエンザ等対策行動計画の改定について
 - (3) その他 ①うしく健康プラン21（第4次）策定部会について
②牛久市女性の自殺の内訳について（補足説明）

委員からのご意見

(1) 牛久市健康実態調査結果について

・健康実態調査票の問4-3 減塩の具体的な取り組みのカテゴリーの一つに「ラーメンなどのスープを半分以上残す」としているが、ラーメンの麺やスープにはたくさんの塩分が含まれているので、減塩の取り組みとしては半分ではなく、レンジ2～3杯程度までにしなければ不十分ではないか。

→減塩の取り組み例は国のパンフレットなど既存資料を参考に設定した。紙面の都合上、選択肢の細分化には限界があった。（事務局）

・問40 健康づくり関連用語、特に6424運動の認知度は、以前より少し上がっているか。（議長）

→健康づくり関連用語の認知度の推移は全体として緩やかな上昇傾向にある。（事務局）

→6424運動は茨城県独自の取り組みであるため、広報手段が限られており、認知度がまだ低いように思われる。一方で、8020運動は国が推進している取り組みであるため、6424運動よりも広く浸透しているようだ。（委員）

・回答者の年齢の4割は70歳以上となっており、回答者の年齢構成に偏りがあるため、結果の扱いに留意が必要ではないか。

→対象者は無作為抽出であり、抽出時点では市の年齢構成を概ね反映していた。回答者においては70歳以上に偏りがあるが、分析上重大な支障はないと考えている。（事務局）

(2) 牛久市新型インフルエンザ等対策行動計画の改定について

- ・ 新型インフルエンザ、新型コロナウイルス以外の新興感染症というのは、例えば、SARS や MERS のようなものを想定しているのか。(議長)

→ 特定の疾患に限定せず、今後出現する感染症も含め対応する計画としている。(事務局)

- ・ 新型コロナウイルスの経験から、誤情報への対応や正確な情報発信が重要だと思うので、感染症流行時の情報発信体制の強化が必要。

- ・ 保健所でも計画を策定し、それに基づいて研修や訓練を実施するとともに、備蓄の配備も行っている。コロナ禍では市町村や薬剤師に応援を依頼し、協力を受けた。要援護者(独居高齢者等)は災害時同様に把握するとともに、衛生物品の備蓄が大切である。

- ・ コロナ禍による生活様式の変化や多くの制限が、子どもたちに与えた影響が懸念される。感染期間中に経験できなかったことを補い、子どもたちへの支援を進めてもらいたい。

- ・ 市民に対し、感染症発生時の行動の目安を分かりやすく示すことが必要。

(3) その他

① うしく健康プラン21(第4次)策定部会について

特になし

② 牛久市女性の自殺の内訳について

- ・ 全国値との比較が必要ではないか。

→ 数値は厚生労働省統計に基づくものであり、全国データも存在するが、全国値との詳細分析までは実施していない。(事務局)

→ 母数が少ないという小規模自治体の統計特性として留意が必要。(議長)

4. 閉会